

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第120回 「言葉がけの大切さ」

こころの相談員 小林 節子

お子さんの発達に関する相談は色々ありますが、幼児期にはやはり言葉に関する相談が多いようです。発語の時期や、言葉の数、表現の仕方など個人差はあるものの、2歳ごろになって言葉の発達がゆっくりだと、周りの大人は気になりますね。確かに言葉は、自分の意志や考えを表したり、他者とのコミュニケーションに不可欠だけでなく、考えることにも言葉が必要ですから、人間らしさをあらわすのに最も大切なものかもしれません。かといって、障がいがあって発語が困難なお子さんが、人としての価値が低いのかというと、決してそのようなことはありません。今では自閉症や、脳性まひなどで「話し言葉」に不自由さをかかえていても、パソコンや、文字盤などのツールを用いて、素晴らしい表現の出来る人もいます。発語が出来なくても、周囲の人たちの会話をよく聞いていて、自分の感情など、内面に豊かさを持っている子もたくさんいます。

ただ、「内面の言葉」、「外に発信する言葉」、いずれにしても、子どもが言葉を獲得していく過程では、やはり育つ環境に(豊かな言語環境)が大切なことは否定できません。しかも言葉の発達は感情の発達や、行動のコントロールとも密接な関係があるといわれています。子どもに絵本を読んであげたり、お話を聞かせたりすることを奨めるのもその理由の一つです。

そして、(豊かな言語環境)というのが、とくに周りの大人の、適切な「子どもへの言葉がけ」であることはいうまでもありません。

言葉を発し始めた子どもが「ワンワン」と、犬を指差した時、子どもにとっては単に犬を見つけた驚きや喜びだけでなく『犬がこわい、大きい犬だ、犬がこっちに来る』など色々な意味を指していることがあります。その時、そばにいた大人がその状況を察して、「ワンワン、大きいね」などと、適切な言葉がけをできるといいですね。

ブランコをこいでいる子どもが声をあげて笑っていたら、お母さんが「楽しいね、楽しいね」と、嬉しそうに言葉をかけてあげると、子どもは「あー、これが楽しいという気持ちなんだ」と、わかっていきます。絵本を一緒に見ながら、熊が眠っている絵を見て、「くまさん、気持ちよさそうだね」、お兄ちゃんとけんかして泣いている子を抱き上げて「悔しかったね」などと、感情を表す言葉も添えるといいでしょうね。

※小林相談員は、あさひ園や育児相談にて相談活動を行っています。

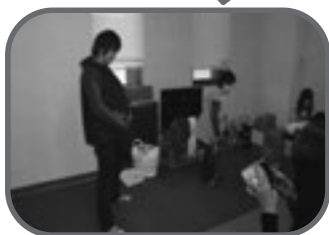
11月活動報告

11月14日(土) マタニティ教室② (パパママ教室)

参加組数が増えてきているパパママ教室。

お兄ちゃん、お姉ちゃんも参加していただいています。

家族みんなで妊婦体験！
産まれてくる命の重さを感じました。



次回：平成28年3月12日(土)

対象：妊娠20～35週の妊婦とその家族(対象週数以外の方も参加可能)

内容：パパの妊婦体験、沐浴指導、分娩に関するお話等

※参加ご希望の方は、子育て健康課(TEL 377-5652)までご連絡ください。

出産時の呼吸法と
陣痛時のマッサージ
方法を学びました。
パパも真剣です！

